

令和6年度 第4回 光明小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年2月4日（火） 13時30分から15時30分まで
- 2 開催場所 光明小学校 1階 会議室
- 3 出席委員 笹竹 和行、河島 秀夫、小澤 房世、岡部 かおり、関島 貴浩
實森 浜代、太田 有昭、太田 利実保
- 4 欠席委員 大隅 智、山本 六二郎
- 5 オブザーバー 新出 丈士（光明ふれあいセンター所長）
- 6 学 校 中野 主税（校長）、新 英樹（教頭）、土屋 淳心（CS担当職員）
横山 貴美恵（CSディレクター）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 横山 貴美恵

9 議長の選出

司会の教頭から、議長の選出について意見を求めたところ、校長から岡部委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

10 協議事項

- （1）学校関係者評価（いじめ防止基本方針を含む）について
- （2）学校運営協議会自己評価について
- （3）次年度学校運営の基本方針の概要について

11 会議記録

司会の教頭から、委員総数10人のうち8人の出席があり、過半数を超えているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）学校関係者評価について

教頭より、学校関係者評価（いじめ防止基本方針を含む）について、資料（5～11頁）を用いて説明があり、委員から以下の発言があった。

●いじめの認知件数9件とあるが、いじめ認知の定義とは。（有昭委員）

→当事者が不快に思うことや、訴えがあった場合について、いじめと定義している。（教頭）

●参観会では、1年生が楽しく元気にやっている。先生の言葉がけが工夫されていて、楽しい様子だった。（学校関係者）評価について、「学校が楽しい」と感じている子が多く、安心した。不登校の子について対応されているとは思いますが、こちらに情報が入っていないので、（委員で）対応できることがないかと、心配している。（實森委員）

●不登校である場合、家庭ではどう対処すればいいかわからず、同級生同士だけでなく、親同士でもどうしたらよいかわからないように思うが、学校には行かせた方がいいと思う。

今は、元気に専門学校に通っているが、高校3年生のとき中学の時の事を思い出し、再発しそうだった。当事者の意見を聞く機会があれば、（※アンケート [4, 6] がいじめに繋がる1つの目安と考え、教師と児童の評価の違いについて）思い違いをなくせるのでは。（関島委員）

- 「授業が楽しくない」との意見があるが、「授業が楽しい」と感じることは何についてか。
雰囲気なのか、できるようになった、分かるようになったことで楽しいと感じるのか、よく考え、そのような子が救われるような対応ができるとよい。また、(この件について) 職員の評価が下がっている点も気になり、職員自身が授業を楽しめないと感じているのでは。

(関島委員)

- 参観(算数)では、(先生は)前にいるだけでなく、間に入ることで(児童の)躰きに気づきやすく、「授業が楽しい」に繋がるのでは。授業の何が楽しいのかを明確にすると、先生も対策しやすくなるのでは。6年生の版画やデッサンでは、同じものを書かせることで、先生が評価を付けやすく、児童同士も作品の違いが分かる。自由な作品の時があってもよいが、まず正解を教えるのも大切では。(河島委員)

- アンケート(学校生活アンケート年3回、いじめアンケート年2回)が多過ぎる。働き方改革で先生も忙しいのに、PDCA(Plan-Do-Check-Action)ばかり追いかけて過ぎるより、生徒に接して声掛けする方がいいのでは。全国で子供の自死が多くなっている。(河島委員)

- 欠席者が少なくてよい。クラスによって、活気があるクラスと、静かなクラス(先生の話真剣に聞いている)があるのが印象的。モニターが見つらい。いじめの件は、学校だけの対応でいいのか。行政が(被害者・加害者を明確にして)いじめ対応している地域もある。低学年にありがちな被害者・加害者の逆転に気を付け、両者の話をよく聞いた方がいいと思う。(利実保委員)

- (1回、2回の)いじめアンケートに出ている子は、同じ子か。(会長)

→すぐ対応しているため、同じ子ではない。5月に発見して9月には対応済み。(教頭)

- 「授業が楽しい」の問いに、自身は楽しくないと感じるタイプだったので、何を聞かれても「楽しくない」にしてしまうかも。「授業が楽しくない」=「いじめ・不登校」につながるものでもない。(新出さん)

- 個性のある子が少ない気がする。昔は親分肌の子が束ねて、いじめを収める役割もあったが、無くなっているように思う。(新出さん)

- SSW(Social-School-Worker)が対応する件は、9件に含まれないか。(岡部委員)

→SSWが対応するような深刻なものは含まれない。冷やかし、悪口、無視が大半。(教頭)

→教員の捉えたものと、児童が内に秘めたものに相違があるように思う。(岡部委員)

(2) 学校運営協議会自己評価について

教頭より、学校運営協議会自己評価について資料(12、13頁)を用いて説明があり、委員から以下の発言があった。

- この評価を、職員は見ているか。(河島委員)

→職員は見えていない。協議会の内容は、会議録としてホームページで通知。また、「光明コミスク便り」(協議会の内容を職員向けにまとめたもの)を職員に通知。「CS便り」(光明小学校のCSの取り組み等をまとめたもの「試すっ子応援団」)を地域の回覧で通知している。(教頭)

→職員に協議会やボランティアの内容を知らせてほしい。指導の参考になる。(河島委員)

●ＳＳＷ、スクールカウンセラー（以降「ＳＣ」と記載）の違いは何か。（河島委員）

→ＳＳＷは家庭に入っていける。ＳＣは学校内だけ。他に、学習支援員等が会計年度任用職員として来ていただいている。（教頭）

→国は少子化だからの理由で正規の職員を減らしているが、その逆だと思う。（河島委員）

（３） 次年度学校運営の基本方針の概要について

校長より、次年度学校運営の基本方針の概要について、資料（17 頁）と別紙「令和 7 年度学校経営基本構想」を用いて説明があり、委員から以下の発言があった。

●「主体的に学ぶ」の授業構想とは。（会長）

→授業の内容について、ポイントを子供たちに示しながら授業を進めること。（土屋）

→見通しを持って進めることは、教師（若手を育てる）を育てることに繋げている。ICT 使うのは良いが、ツールの 1 つのなので、大切なことが疎かにならないようにしたい。（校長）

●宿題は自主的なのか。自主学習はいいが、子供たちにできるか。例えば、いくつか宿題を用意して子供に選ばせる等、提示方法を工夫するといったのでは。自分で選んだ宿題であれば自主的に取り組むようになるのでは。（関島委員）

→宿題は学習習慣をつけるのが目的。高学年になると自主学習にしている。（校長）

→（小学校で自主学習を指導しているが）中学、高校になると宿題があり、なんとも難しい。（関島委員）

●グランドデザインの内容は、家庭向け、地域向けの伝え方が大切。

→今年度は月 3 回程の学校便りの中で、これらをかみ砕いて家庭へ伝えた。うまく伝わっていない内容もあるかもしれないので、より良い方法を模索し、来年度へ繋げていけるようにしたい。（校長）

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

【その他報告事項等】

土屋から、3 学期のボランティア活動について、資料（14 頁）を用いて報告があった。

教頭から、夢育やらまいか事業の収支決算について、資料（16 頁）を用いて報告があった。

教頭から、3 月 1 7 日（月）に卒業式、4 月 8 日（火）に入学式があり、委員に出席を促し、後日改めて案内する旨の連絡があった。

教頭から、令和 7 年度第 1 回学校運営協議会は、令和 7 年 4 月 2 5 日（金）9 時 2 0 分から 1 1 時 2 0 分に開催する旨の連絡があった。

教頭から、令和 7 年度に 1 年生を迎える会があり、委員に参観を促す旨の連絡があった。

教頭から、令和 7 年度の学校支援コーディネーターに太田有昭委員が参加し、小澤委員と 2 名でご協力いただき、また、現在学校支援コーディネーターの関島委員は今年度までとし、来年度は引き継ぎを兼ねてサポートしていただく旨の連絡があった。